

第3学年 国語科学習指導案

3 年 26名
指導者 米山 美代子

1 単元名 じんざは幸せだったのかな 「サーカスのライオン」(東京書籍 3年下)

2 指導にあたって

(1) 単元設定の理由

本学級の学習者は、読書や保護者や教師による読み聞かせの時間は好きである。朝の読書の時間になると学級文庫や市立図書館ボックスの中から読みたい本を選んで静かに読んでいる。しかし、ページ数の少ないものを選んでいたり挿絵の多い本を目で追っていたりしており、長い文章の物語作品を読むことは少なく偏りが見られる。これまでの学習者は、低学年において、「登場人物の行動を手がかりに、場面の様子を想像する力」を駆使したり、さらに伸ばしたりする場を重ねてきている。したがって、中学年では、より長い読み物と向き合いつつ、それらの力を発揮する場を設定する必要がある。また、「登場人物の性格や気持ちの変化」といった文章全体を見渡してこそ見えてくるものを想像する場の体験を手引きする必要もあると考え、本単元を設定した。場面の移り変わり、登場人物の行動や会話、さらには、そのときどきの情景等を関連的にとらえ想像力を働かせながら読むことにより、新しい気付き等、物語を深く味わう喜びに気づかせ、今後の読書生活の広がりへの糧としたい。

物語にふれる場として、これまで次のような言語活動を設定してきた。「すいせんのラッパ」(4月)では、場面の様子を思い浮かべながら楽しく音読発表をした。「ゆうすげ村の小さな旅館」(7月)では、物語に隠されたしかけを見つけながら読み、登場人物の行動や様子を中心にあらすじに書き相互に読み合う活動をした。「木かげにごろり」(9月)では、登場人物の行動や会話などから民話のおもしろさを味わいながら読み、一番心に残った場面をポスターに表し感想を発表し合う活動をした。これらの言語活動を通して、物語文中のことばを手がかりに、感じたり考えたりしたことを想像し、それらを音声言語なり文字言語なり、自分のことばで表現する活動により意欲をもって取り組めるようになってきている。

本単元で扱う教材「サーカスのライオン」は、毎日同じことの繰り返しのサーカスの生活の中で、退屈な気持ちを抱えていたライオンのじんざが、男の子との出会ってふれあっていくうちにやる気を取り戻すが、最後では、男の子を火事から救うために自ら火の中へ飛び込み命を落とすという話である。思い合う相手とはどれほど力を与えてくれる存在か考えさせ、心のふれあいの大切さを強く訴えかける作品である。じんざは、学習者のもっている「強いライオン」のイメージとは全然違う。これまでの思い込みで読み進めることがないように、叙述を丁寧なふまえながら読み取らせたい。じんざの気持ちが、どこで、どのように変化したのかじんざの行動や表情の描写に表された心情を叙述に即して丁寧に読み取ることができるよう手引きしたい。その際、なぜ気持ちが変化したのか、理由を考えその根拠を明確に押さえることにより、本教材がもつ価値まで深く読み取ることができるように考える。

本時は、これまで場面ごとに中心人物の気持ちを綴ってきた学習者個々の「じんざ日記」或いは「少年日記」を読み返し、その日記集のタイトルを理由とともに発表し合い交流する。互いの考えを知るとともに、物語を読んだ自分の読みの価値を大切にできるようにしたい。

(2) 活用する力の育成を図るために

本単元における活用する力を育成する場は、特に第2次の場面ごとに、中心人物の気持ちの変化を日記に表す場である。学習者が登場人物の視点に立って、その人物が思ったり、考えたりしたであろうことを日記として表現する過程において、指導者は、「情景や叙述をもとに登場人物の心情」について想像したことを文章に書く力を育成したい。本時は、第2次の第7時にあたる。ここでは、これまでに書いてきた日記を読み返し、自分が選んだ登場人物の心情に最も適したことばを使って日記集のタイトルを考え、その理由を交流する場を設定する。学習者が友達の考えを見たり、分かったりしやすいように、また、交流のなかで、物語の内容を再度正確に確認するよう、板書や掲示物、発表の順序などに配慮した支援を行う。

3 単元の目標

(1) 学習者の活動目標

「じんざ日記」や「少年日記」を書こう。

(2) 指導目標

読んだ本に関連した他の本や文章を進んで読むことができるようにする。

物語の中心人物の心情や行動と場面の様子とを結びつけながら，気持ちの変化を豊かに想像しながら読むことができるようにする。

目的に応じて，理由や叙述を挙げつつ，自分の考えを書くことができるようにする。

自分の考えや感想等，書いたことをもとに工夫して話すことができるようにする。

4 単元の評価

	評価規準	「十分満足できる」と判断される状況 「おおむね満足できる」状況にするための手だて	評価の資料
関心 ・ 意欲 ・ 態度	読んだ本に関連した他の本や文章を進んで読んでいる。	教材文を学習中に，内容にかかわって意欲的に発言したり，指導者が準備した読み物に次々と手を伸ばしている。 文章量，使用されている語句の難易度を考慮した様々な読み物を準備する。	学習者の様子 発言
読む こ と	物語の中心人物の心情や行動と場面の様子とを結びつけながら，気持ちの変化を豊かに想像しながら読んでいる。	叙述により場面場面の中心人物の心情や情景を想像した上で，それらに関連づけて，中心人物の心情の変化を読み取っている。 心情や情景が分かる文やことばに着目させたり場面ごとに書いたことばカードを提示したりする。	学習者の様子 挿絵 カード
書く こ と	目的に応じて，理由や叙述を挙げつつ，自分の考えを書いている。	叙述により，場面場面の中心人物の心情や情景を想像したことを生かして，「じんざ日記」「少年日記」，日記集のタイトルを，各形態で書いている。 心情を表すことばを集めた手引きを用意したり，文例のモデルをいくつも用意して提示したりする。	学習者の様子 ワークシート 学習の手引き
聞話 くす こ と	自分の考えや感想等，書いたことをもとに工夫して話している。	自分の考えや感想を理由と対応させながら話している。 理由とともに発表できるよう発表の話形を用意したり，自信を持って話せるよう声かけをする。	学習者の様子 発言

5 学習計画

学習活動	学習者の意識の流れ	主な指導・支援	身に付けさせたい力
<p>第1次(2時間) 初発の感想を出し合い、ポイントを絞り込む。 ・心に強く残ったところ ・素敵だと思ったところ ・変だなと思ったところ 等</p> <p>日記を書き、短いことばで表すことを知る。</p>	<p>曲芸をするじんざは毎日さびしいんだな。</p> <p>少年に出会ってからじんざが元気になってよかった。</p> <p>少年を助けて死んでしまうなんて、じんざはかわいそうだ。</p> <p>場面ごとのじんざや少年の気持ちは、どうだったのかな。</p> <p>じんざが男の子になって、変わっていく気持ちを日記に書いてみよう。</p> <p>サーカス小屋での毎日のじんざの気持ちを書こう。</p> <p>大好きなじんざに会った少年の日記を書きたい。</p> <p>5つの場面だから、5ページ書こう。表紙も作りたいな。</p>	<p>おおまかなあらすじをまとめることができるように挿し絵や手引きを用意する。</p> <p>自分の感想をつかみきれない児童には、一番心に残った場面はどこかを質問し、口頭で表現させて感想の整理の手助けをする。 単元の目標を明確にし今後の読みの視点を明らかにする。</p>	<p>読み取った内容について自分の感想をや考えをまとめる。</p> <p>意味のまとまりや様子が分かるように音読する。</p>
<p>第2次(7時間) 場面ごとに中心人物の気持ちの変化を考えながら日記に書き表す。</p> <p>(1) 場面の中心人物の気持ちを読み取り、日記に書き表す。</p> <p>(2) 場面の中心人物の気持ちの変化を読み取り、日記に書き表す。</p> <p>(3) 場面の中心人物の気持ちを読み取り、日記に書き表す。</p> <p>(4) 場面の中心人物の気持ちを読み取り、日記に書き表す。</p> <p>(5) 場面の中心人物の気持ちを読み取り、日記に書き表す。</p> <p>(6) 日記にタイトルを付け表紙を作り、選んだ理由を含めた前書きを書く。</p> <p>(7) つづりにタイトルを付け表紙を作り、前書きを発表する。 (本時7/7)</p>	<p>の場面のじんざの気持ちを書こう。</p> <p>の場面のじんざと少年の気持ちを書こう。</p> <p>毎日退屈だ。散歩の時ライオンが好きな少年に声をかけられて、どきとした。</p> <p>しょげているように見えるなんてだめだなあ。明日サーカスを見に来るかな。</p> <p>ライオンのことを話した。家まで送ってくれたんだ。明日ライオンに会いに行こうかな。</p> <p>の場面のじんざと少年の気持ちを書こう。</p> <p>今日も少年がチョコレートを持ってきてくれた。好きじゃないけどうれしいな。</p> <p>サーカスが終わる。少年に5つの火の輪をくぐり抜けるところを見せてやろう。</p> <p>おこづかいもたまったから明日はサーカスが見に行ける。じんざを応援しよう。</p> <p>の場面のじんざと少年の気持ちを書こう。</p> <p>男の子を絶対助けるんだ。わしはどうなってもいいんだ。</p> <p>ウオーッ。絶対助けてあげるよ。ああけむりで前が見えない。</p> <p>じんざがぼくを助けてくれた。でも死んだなんて。もう会えない。</p> <p>の場面のじんざと少年の気持ちを書こう。</p> <p>少年が助かったからよかった。曲芸がかっこよくやりたかったな。</p> <p>ぼくを命がけで助けてくれてありがとう。でも死んじゃうなんて。</p> <p>もうじんざはいない。でも、みんな拍手をしたよ。じんざ、ありがとう。</p> <p>日記集のタイトルを考え表紙を完成させよう。前書きに理由を書いておこう。</p> <p>「少年を助けて幸せだったじんざ」にしよう。</p> <p>4の場面の「強いじんざ炎の中へ」はどうだろう。</p> <p>助けてくれてありがとうの気持ちを短く書きたいな。</p>	<p>じんざと少年(以下中心人物と表記)の気持ちの変化が読み取れるように会話文や様子を表すことばに注意することばかけをする。</p> <p>授業の終盤にその場面や中心人物の心情を短いことばで表す。その際、心情を表すことばを具体的に手引きすることによりどのことばが適切かを吟味するよう、ことばかけをし、文中のことばや表現に着目させるようにする。 1ページできあがるごとに学習者の作品を発表し、場面ごとの中心人物の気持ちを全体で確認し心情カードにまとめるようにする。 授業の導入時に心情カードを提示することによって、前時までの中心人物の気持ちの変化を振り返りながら、「勇気や優しさを生み出しているのは何か」や「命を投げ出せるほどの強い愛情を支えるものは何か」を考えられるように丁寧に読み取らせるようにする。</p>	<p>場面の移り変わりや情景を叙述をもとに想像しながら読む。</p> <p>人物の気持ちを想像する。</p> <p>想像したことを文章に書く。</p> <p>場面の移り変わりや情景を叙述をもとに想像しながら読む。</p>
<p>第3次(2時間) できあがった日記を読み合い、「じんざは幸せだった話し合い奥付けを書き、冊子を完成させる。 テーマ読書をする。 ・「ガオーッ」 ・「夕日の中を走るライオン」 ・「青銅のライオン」</p>	<p>じんざは幸せだったのか。不幸せだったのか。</p> <p>つまらない毎日が、少年に出会って元気になったから幸せだったと思う。</p> <p>少年を助けるために力の限りほえたところが悲しい。死んだから不幸せだ。</p> <p>少年が大好きだと言ってくれて、やる気が出てきたから幸せ。</p> <p>ライオンの出てくる他の物語も読んでみたいな。</p>	<p>今までの中心人物の気持ちを書いたカードを提示することで振り返り、表紙作成の際の手がかりとする。 学習の手引きによって前時に完成した根拠をも明確に表現できるように板書を工夫する。</p> <p>ライオンの出てくる他のふれあいを描いた物語を用意し、読書への意欲をもたせる。</p>	<p>自分の意見を、理由とともに述べる。</p> <p>いろいろな読み物に興味をもち、進んで本を読む。</p>

6 本時の学習

(1) 目標

学習者の活動目標

日記につけたタイトルを発表しよう。

指導目標

日記のタイトルについて理由を発表し合う活動を通して、作品に対する自他の感動の所在を知ることができるようになる。

(2) 展開

学 習 活 動	指 導 ・ 支 援	具体の評価規準	評価の資料
1 4・5の場面を音読し、本時のめあてを確かめる。	今まで書いた日記のつづりを振り返り、表紙に書いたタイトルと理由を発表することを確認し、本時の課題意識が明確になるようにする。		
日記につけたタイトルを発表しよう。			
2 じんざや男の子になって書いた日記のタイトルを、理由とともに発表する。	前時に書かれた全員のタイトルと理由を把握しておき、物語の展開や、読みの深さ等を踏まえた意図的な順番で指名する。	自分の書いたタイトルやその理由を明確にして発表し、友達の発表に耳を傾けている。	表紙 発言 ワークシート カード
3 発表された内容について、気付いたことを発表する。	考えの異同を意識させる問いかけを入れたワークシートを準備する。		
4 「じんざは幸せだったのか」について考えを出し合い、次時の活動への意欲をもつ。	学習者が発表する意見・理由が思いつきでなく、叙述に基づくよう意識づけるために、指導者は、2で作成した板書・掲示を使用しながら、話し合いの司会的役割をつとめる。 次時は、じんざは幸せだったのか否かについて引き続いて話し合うことを予告する。		

(3) 本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	じんざや男の子の様子やことばから、じんざや男の子の気持ちを考えて書いたタイトルを理由を明確にして発表している。
「おおむね満足できる」状況にするための手だて	自分の感動から考えたタイトルについて自信をもって発表できるように、前書きに励ましシールを貼ったり、ことばかけをしたりする。